京城日報
朝刊 夕刊共六頁
昭和十六年十二月十五日（月曜）

香港に開城勸告

わが武士道的好意を ヤング總督全面拒否

已むなし 鎧袖一觸屠らん

【九龍十四日同盟】九龍を占領し香港島を包圍睥睨中なるわが攻城軍の司令官は十三日一應爆撃を中止するとゝもに香港總督に軍使を派遣し、左の要旨の親書を手交した

今やわが攻城砲兵の前線と勇敢無比なるわが空軍は、香港島を指呼の間に望みこれが覆滅の準備完了せり、すなはち香港市の命脈はすでにきまり勝敗の結果は自ら明かなり、ここに貴軍の運命と在香港無辜の民百萬の上に思ひを致す時 わが攻城軍は事態を推移する儘にまかす能はず、開戰以來貴軍よく戰ふといへどもこの上の抵抗は百萬の老若男女と無辜の民の生命を斷つに至るべく、これ貴國の騎士道より見るも、はたまた、わが武士道より見るもともに堪へざるところなり、總督深くこゝに思ひを致し直ちに開城會議の開催を受諾せられよ、若し勸告にして容れられざらんか、余は涙を呑んで實力のもとに貴軍を屈服せしむる方途に出づべし

これに對しヤング香港總督はわが大義の勸告を全面的に拒否、こゝに香港島はやむなく砲火の巷と化することゝなつた

わが陸鷲の猛襲をうけ香港啓德飛行場に燃え上るイギリス機＝【軍撮影】＝電送

マレー戰線

英機械化一個師擊滅

わが軍英領深く突入

【東京特電】大本營陸軍部發表（十二月十四日午後三時四十分）＝マレー方面に作戰中の帝國陸軍部隊は北部英領マレー方面において敵前上陸に引續き英軍の激烈なる反擊を擊碎しつゝ逐次戰果を擴大中にしてすでに堅固なる國境陣地を突破して深く英領に突入し、一昨十二日〇〇方面においては英國軍機械化一個師團を擊滅し多數の俘虜および兵器を鹵獲せり、その主なるもの左の如し 戰車二十輛 速射砲十六門 自動車約六十輛

新嘉坡こゝ一ケ月

英側全面的敗戰認む

【上海十四日同盟】當地英國の極東軍事通はシンガポールにおける英海軍の全面的敗戰を認め（シンガポール）の運命はこゝ四週間乃至八週間以內にあると頗る悲觀的觀測を下してゐる

東印度地方危險區域と宣言

【ヴイシー十三日同盟】アバス電によればB・B・C放送局は英政府が十三日カルカッタを含む東…

比島の空軍全滅

わが方制空權完全掌握

【東京電話】帝國海軍航空部隊は開戰以來六日間にわたる比島空軍攻擊により實に二百四十六機を擊墜破した、もと〳〵比島空軍は戰前世界一を誇つたボーイングB一七の重爆（空の要塞）初め最新鋭の戰鬪、偵察、爆擊機約二百四十乃至二百五十機を有してゐたと見られるから、かりにその後補給增强してもその數は知れたもの、十四日の大本營海軍部發表によれば十三日の空襲に挑戰して來たものは僅かに一機のみといふ所から判斷しても比島の優勢な空軍は今や全滅と同樣で制空權は完全にわが手に歸することゝなつたことが判る、かくて太平洋上わが制海空權のもとに比島攻略戰は敵に最期のとどめを刺すべくいよ〳〵活潑に展開されることゝならう

宣戰を御奉告

靖國神社に勅使參向

【東京電話】畏くも天皇陛下には宮中三殿に宣戰を御親告遊ばされ、神宮、山陵にも勅使を參向せしめられたが、さらに十四日から全國十一萬の神社に奉告せしめられることになり、その第一日十四日靖國神社には勅使として掌典伊藤… 公以下奉仕し、海軍軍樂隊の奏樂裡に參向せしめられた、この朝…

明治神宮臨時大祭

【東京電話】對米英宣戰奉告ならびに戰勝祈念の明治神宮臨時大祭は十四日午前十時…

ノックス米海相 布哇から飛機で華府へ

ロードアイランドでも燈管

敵機未だ來襲せず

臺灣南部の敵襲は單なる泡沫

遂に姿も見せず遁走

【臺北電話】臺灣軍司令部十四日正午發表＝一、大東亞征戰第七日たる本日午前に至るまで本島は勿論全國に一つの敵機の來襲さへなし 一、昨十三日午後五時ごろ高雄遙か遠く上空に一、二機敵機偵察飛來せるが如きも遂に本島に近接せず遁走せり

總額廿八億圓

陸軍追加豫算案決定

大東亞戰公債 廿八億圓發行

議會提出法律案

三相演說と共に決定

【東京電話】十四日の臨時閣議は午後四時より首相官邸に開催、開議に入るに先立つて參謀本部岡本少將より約四十分間にわたり、比島、マレー方面の陸軍戰況を聽取したのち…

米に救援要請 セイヤー比島辨務官悲鳴

米遠征軍派遣 ルーズベルト大統領言明

伊大使、海軍へ祝意

エクアドル在留邦人を逮捕

泰の華僑大東亞戰爭に協力

獨空相から帝國海軍に祝電

けふの兩院

特輯

火を吐く太平洋

今ぞ知れわが實力

燦たり輝く帝國海軍の偉業

快捷に泣く末次大將

『日本の生命線は南方にあり』と喝破し『米英海軍恐るるに足らず』と米英妥協論者に鐵槌を亂打し續けた時代の先覺者末次信正大將は、打ち續く日本海軍快捷の報に涙を流して男泣きした、これに同大將に世界を驚かする帝國海軍の威容を語つて戴ふ

末次大將

今まで世人往々日本にゐて日本海軍の實力を知らず、米英も我が實力を明瞭に認識してゐなかつた、そこに我國當然の發展の道たる南進が遲延されてゐた理由がある、米英が帝國の聖業を阻止せんと企てた根本的誤謬があるのだ、その點ノックス米海軍長官やスタークー作戰部長は勿論、ルーズヴェルト大統領も開戰前迄に誤認してゐたのだ

……◇……

大體世人は數のみを見てその實力を見ないが米國の海軍は元來「ただで世界一周が出來ます」といふ宣傳ポスターにつられて失業者を逃れるため海軍々人になつた人が多く、しかも志願者は政府の募集人員の半ばにも滿たぬといふのが現狀だ、だが彼等は職業軍人であ

も判るではないか

……◇……

同じ敵國側でもイギリスは米國と違ひ多年日沒せざる國を支配して來ただけ海軍魂がある、その現れは開戰早々上海附近の英砲艦の態度を見れば判る、米國海軍は直ちに降參したが、英艦は飽まで交戰態度に出て撃沈された、ことに英海軍の誇り驕さがある、だがそれにも拘らず、皇軍のマレー半島上陸を見れば上陸に際して殆ど抵抗らしい抵抗を示さず、單に輸送完了後の空船一隻を撃沈した程度である、こんなことでは決死の我勇士を敵として戰爭してゐる等と米英とも言へるものではない

……◇……

愈よこれから戰爭が長期化するにつれて潜水艦が主な役割を演ずるだらう、だが我海軍は既にハワイ、フイリッピン、グアムの米基地を占領、もしくは破壞してゐるし、シンガポール方面は既に封鎖狀態だから日本近海に攻めて來んと企圖する米英潜水艦は遠く濠洲、印度などの各地の遠洋航海をして歸り、修理や燃料、食料その他を補給せねばならぬから、米英潜水艦の攻撃能力は現在半分以下に低

更に特殊の訓練を施し、その艦長、司令官以下各乘組員の骨格をなす人々は悉く十年以上潜水艦戰術のみを研究してゐる、前大戰當時、米英側から恐れられてゐたドイツのユーボートの乘組員は、有名なハイシーフリードから選拔してゐたのだから強かつたが、それでもその獲物と狙つたのは商船に過ぎなかつた

……◇……

然るに我潜水艦は過去廿年、遠くは卅年以前から猛訓練を施し如何に多くの犧牲を拂つたか判らぬがそれは結局血と汗の猛訓練であつた、要約すれば戰爭に一夜漬の試驗勉强では駄目だ、長年の人知れぬ猛訓練努力こそ遂に輝しい戰果を擧げるものなのだ、目下發表されてゐる我潜水艦の戰果は海軍省でもいつてゐる通り、極く内輪に見積

日本の飛行機は　その現勢力から

松永少將

いつても、生産能力からするも同じ英を合したそれに比すれば同日の談ではない、またスピード及び空の要塞能においても米英のものに勝はれる優秀機は日本のものとも劣らぬものだ、だが海鷲の大さはその猛訓練と不拔の信念である、今や日本は生死の關頭に立つるといふ覺悟を深く胸に刻ん

猛訓練の賜物

海鷲を語る松永少將

東亞解放の征戰

屠れ傲岸暴戾米英

平貞藏

平貞藏氏

わが關心を誤認

太陽放射線作戰

ＡＤ包圍陣に葬送曲

陸軍少將　伊藤政之介

有史以來の快擧

帽の鬪を折くやうに相踵ぐ快報また快報に萬歲は爆發し、痛快の叫びは感謝感激の涙となる、なんたる日本海軍の偉大さよ、古今海戰史の番付で日本海大海戰は別として西洋においてはトラファルガル海戰、スペインの無敵艦隊の覆滅、第一次世界大戰のジュットランドの海戰、古いところではペルシャ、サラミス海戰などが大關格とされてゐる、然るに今回の戰における我が皇軍、海軍の活躍の偉觀はどうであるか、開戰第一日ハ

ワイにおいて米國太平洋艦隊の主力と航空兵力を擊碎し第三日にしてマレー半島において英國東洋艦隊の主力を擊滅した、このやうなことは古今東西未だその例を見ざるところで、將に日下開山の地位におかるべき壯絶、快絶の都繁華的快擧である

一發必中の體當り

日本海軍の試みたこの驚愕的戰法は如何なる方式に則つたものであるか、從來の海軍戰法といへば大抵縱陣とか横陣とか、乙字型とか丁字型とかいふ形式をとり、選

海の距離をへだてゝ砲戰を交へるか、或は彼々相摩して戰ふやり方であつた、然るに今度日本のとつた海軍の戰法はどこの何流か、何式といふかその名も未だよくわからないが、全く獨自の創意發明にかゝる斬新奇拔の戰法で合理的な一發必中、一擊必殺といふ天下無類のもので、さしもの米海軍も、英艦隊も手の施しやうがなくおめ〳〵撃沈されて了つた、この日本のとつた戰法は難しいもので他の追從を許さぬ、これは將に日本流の新戰法

半島が誓ふ愛國の雄叫び

響けこの熱血！世界の果までも！…

斷じて撃て米英を 烈々と迸る血の鼓動

きのふ米英打倒大演說

怒濤の火となつて燃えさかる米、英の膺懲熱―うちつゞく皇軍勝利の快報に半島の國民的意識はいよく火を吐いて"米英打倒大演說會"が、朝鮮臨戰報國團の主催のもとに十四日午後六時から京城府民館の大講堂を會場に熱火の總進軍を獅子吼、ここに半島二千四百萬の燃える意氣は斷じて撃つべし、完膚なきまでに！と征戰完遂の世紀の聖業を火の柱ともりあげたのである、『財と命と凡ゆる赤誠をつくし總力を捧げる』誓ひも悲壯な誓ひのもとに閉會した、この朝の臨戰報國團全鮮大會の感激を胸つて、そのまたこの雄叫び―この世紀の光榮に共感した府民は定刻前すでに四千が場內へ雪崩れこみ溢れて、場外には"世紀の聲"に接せない數千の聽衆が戶を叩き、拳をふりあげて熱狂、本町署では交通整理に出動するといふ騒がしい盛況の姿を描き出すうちに井坂臨戰報國團事務長が挨拶をのべていよく獅子吼の舌火は切つて落された

講堂を揺り動かす拍手に迎へられて先陣の白山青樹氏が登壇 チャーチル、ルーズヴエルト、蔣逆の三鬼が葬られてこそわが日本はこの冬を暖く暮し、腹太く皷が叩けるのだ、いまや僞瞞の米英はその命日夕にある、西太平洋は一たび起つた皇軍によりあへなくその鐵鎖は絶たれ、今では大西洋からの艦隊、飛行機の增援は全くその道を閉ざされてしまつたのだ、信頼と敬虔を禁じ得ないわが陸海軍はいまやパナマ、スエズの運河も爆破するであらう、そのときは、チャーチルはテームス河へ、ルーズヴエルトはナイヤガラの瀑布へ逃げ、蔣は ヒマラヤ山脈を追はれて三百四十年間も英國に血を吸はれてきた印度の海に、それぐ飛びこんでわが日本の正義にわびるであらう、かつて比島のケソン大統領が來朝して日本の軍事、政治、經濟、文化を觀て歸國、千七百萬民衆を前に『日本と手を握る日は今だ、然らずんばわが運命は決して明日を知らぬであらう』と喝破した過去があつた、その比島が海の四圍をつゝむ英國の軍部と、國內に孤立した執劍の前に威嚇されて、けふこのときまで何一つもいへなかつたのだ、誰かにいま比島は皇軍の進駐を狂喜してゐるに違ひない、この生々しい現實をみても、日本の正義の矛の偉大さが自ら判るのではないか、起て二千四百萬民衆よ、國に殉ずる秋はいまだ、その感激の血をわれら子孫のために今こそふき出すときだ 滔々卅分間にわたつて蹶起を促す

熱辯は 滿堂を壓し四千の聽衆の胸深く溶けこんで行く、つゞいて白山一熊氏が『一怒而安天下』と題して大東亞戰爭は天の道が非を討つ聖なる膺懲だと征戰の意義を迸る雄叫びにのせて說くと、呂運弘氏が『有色人種解放の聖戰』安部成熙氏『打倒―米英膺懲』松村雄勇氏が『ルーズヴエルトよ答へ』、玉峰珍氏が『新秩序の確立』佳山啓氏が『所懷』と題して次々と登壇、半島最高の知識人が說く征戰下の理念と信條を堂々と喝破すれば、共感の叫びと共に足をふみならして征戰遂行の臣道實踐を誓ひあふ血の鼓動は中繼放送の電波にのつて世界の果てまでをゆすぶつて行くのだつた【寫眞＝米英打倒の大演說】

刻々迫る不氣味な一瞬 "平和の使"遂に水泡

無闇に強がるイギリス

香港明渡し勸告

【九龍十四日同盟】平和裡に香港を救はんとしたわが方の意圖は英國側無謀の強がりのため遂に水泡に歸した、十三日行はれた軍使一行の努力は歷史の一頁を飾るに相應しい武士道的場面が展開された、軍使多田中佐以下三名は道案內の英婦人を伴ひ十三日午前九時五分九龍碼頭の埠頭から乘船した "ピース・ミッション（平和の使）"と大書した旗を大きく左右に振りながらランチは全速力で走る、彼我とも砲聲はまつたくやんでゐるが不氣味な銃口が一やうに向けられてゐる、一分！二分！三分！ランチは無事香港島についた、ただちに英正規軍、香港義勇隊、防空監視隊などに迎へられ、日本にもお馴染のボクサー參謀少佐が駈けつけこゝに初めて交渉の第一歩が踏み出されたのであつた、わが軍使は攻城軍司令官から總督への親書を持參した旨を述べ、親書を總督へ傳達方を要求したところ英國側は彼我交戰中なる所以を力說して極力その受領を拒否したが わが方の說得に漸くこれを接受することとなりボクサー參謀少佐は親書を携へて自動車を驅つて總督官邸にいそいだ、爆撃中止制限時間たる正午は刻々として迫る、英國側の會議は未だ終りさうにない、成功か不成功か軍使一行の顏はぴんと緊張してゐる、『會議がひまどるなら回答は陸軍から香港時間三時までに九龍に』と睨眠したところ、それから五分ほどしてボクサー少佐が駈けつけ『わが勸告を全面的に拒否する』旨回答しこゝに交渉は決裂再び砲火を交へることとなつたものである

竹馬の友に聽く"世界の偉人"山本大將

て語られる その言葉は、一つ一つわが帝國が世界に誇る軍艦提督の 懷深い人間味だ、現代の偉人とは如何なる男で あつたか、いかなる 時代が此偉大な人間を生んで來たか――一は佐藤京城醫專校長の語る 中學生山本五十六、一は矢島朝鮮米穀市場 社長の語るロンドン會議直後の山本提督―【寫眞＝旗艦々上、太平洋の荒波を睨んで起つ山本聯合艦隊司令長官】

米英艦隊の主力を一瞬に撃滅して世界をただ呆然とさした聯合艦隊司令長官山本五十六大將の竹馬の友が京城府內に二人もゐる、大將と親交のあつた人々によつ

脛の飛出た小倉服 ごろんこの雪合戰には好敵手

"中學生山本"佐藤醫專校長談

『山本君かい？、あれは君、平凡な可愛い坊ちやんだつたが…』世界を震撼させた聯合艦隊司令長官山本五十六大將を梅や竹の幼友達のある日本間で『山本君、山本君』と懷しさうに呼ぶのは京城醫專校長佐藤剛藏氏だ、姉の末子を提督の姉の養女にやつたといふ 姻戚關係 よりも、故郷

長岡…… 中學で同じどろんこの小倉服を汗と雪に汚しながら、雪合戰に火花を散らした無邪氣な竹馬の友だといふ方がはつきりする

佐藤さんが五年なら提督が一年下の三年生 『いや何、別に山本君を變つた譯でもないんだが、はつしと左の頬に當つたね、ははは……、當つて四散した雪礫の形がいまも眼に見えるやうだが……、脛のトビ出た小倉服を着て寡默な平凡な生徒だつた、貧乏士族の息子で、當時はまだ高野五十六と舊姓を呼んでゐたがそれがあの維新に有名な山本帶刀の家（山本帶刀は家老だつた）に

養子 に行つたんだね、五十六といふのは多分父親の五十六歳の時の子だつたと記憶してゐる、家が貧しかつたから藩主の育英事業でつくつた"長岡舍"に這入つてゐた、あれが將來の大提督になるとは一寸想へないが―』

【寫眞＝山本大將を語る中學時代二年の先輩佐藤京城醫專校長】

敷島の煙をもてあそぶやうに吹出しては、老校長は懷しい革袋の紐を解くやうな靜かにも深い笑顏で 『グアムやフイリッピンの問題にあらず、はたまたハワイ、香港の問題にあらず、實に華府街頭、白理論上の疊ならざるべからず―と戰前提督は既に友人に話してゐた 今日の

勝算 はその時から早くも提督の胸にはあつたのだらう、偉大なる哉だね』は、は……と二年だけ上級の先輩は手に開いた"新潟縣立長岡中學校同窓會"の小さな名簿をそつと閉ぢた

勝負事なら世界一

ロンドン會議を覆したあの度胸

矢島社長の想ひ出

櫻 散りかけた昭和十一年の暮の終りに、新潟縣下の山につつまれた溫泉宿のランプの下で、窓の外の溪流からそよ風に乘つて來る河鹿の聲を聞きながらパチリパチリ

將棋の駒を 進めてゐるのが今をときめくどてら姿の山本提督だつた 『强いね將棋は、まさに米英を相手の軍艦戰だよ、飛車や角はぽんぽんと惜し氣もなく呉れてやりながら、歩で一氣に詰めようといふのが提督さんの手だ、正道ではないんだが、それでゐて道をはづれてゐないんだよ、さうよ奇襲戰よ』 朝鮮米穀市場社長矢島杉造氏は明治町の社長室で

當時の想出 をさう語つた、ロンドン會議を終へて故山に英氣を養つてゐた當時の少將と、當時總督府農林局長だつた矢島さんとの故山でする將棋戰である

『勝負ごとならね君、それはね君、トランプなどポーカーでもブリッヂでも本當に世界一だらう、面白い話がある、その とき提督がご自分で話してゐたが、ロンドン會議に出てみるとどれもこれも相當な奴ばかりだ、わが提督はまだ少將だつた、俺みたいに若二才で―と一寸氣がひけたんだね、しかしその時

トランプに 掛けては世の中で俺に勝つ奴は一人もゐないんだと思ふと、なアに大した奴はをらんと落着いて來たさうだよ、さうしてあの會議をひつくり返したんだが、やつぱり藝は身を助けるかね……』 顏を出して笑つて『さうではなく身が藝を助けるんだよ、あの人は―、これも當時の話だが、ポケットに忍ばせたボーロを道を歩きながらポンポンと頭の上に投げ上げては

口で受けて 喰べてゐられた、それが君、村長などが迎へに出てゐる道でだよ、好きで喰べてゐられるのか、それとも何かを考へてなのか、今も僕には判らんが、とに角大した度胸だ、アメリカやイギリスを全滅するのは責任を持つが、艦艇だからこちらも幾分やられるに相違ない、その時、政治家や國民が騷ぎはしないか、それが心配だと當時早くも提督は話しておられた、世界を睥睨する大提督にしてこの慮ありかと、今も臣民に深く殘つてゐる』

五年下級の 同窓生は、今も上級生におくる賞讃をちらと見せた【寫眞＝語る矢島朝鮮米穀市場社長】

犯人は斯く捕へよ

今、明日全鮮で家庭防犯指導訓練

神州日本の國運を賭した大征戰だ、銃後半島から一人の犯罪者も出すな―と總督府警務局では十五六兩日全鮮一齊家庭防犯指導訓練を行ふ、兩日は警察が主となつて犯罪撲滅精神の普及徹底を圖るが、このため全鮮二千四百萬愛國班員を動員して自衞方法、犯人搜査、檢擧方法など一人々々が警察官になつた積りで戰時窮乏から犯罪の一掃を期さうといふのだ、このため總力聯盟防衞指導部では『防犯必携』と題する小冊子四萬五千部を全鮮各愛國班に配布する、なほ戰時犯罪處分特令法律案要綱に當つても戰時下として最も唾棄すべき竊盜、殺人騷擾罪の從犯等の犯罪撲滅を期して處罰方法も極刑を以て臨むこととなつた、特に燈火管制下の犯罪殲滅を期して處罰方法も極刑を以て臨むこととなつた これにより燈管中に強制猥褻に對しては三年以上、強姦に對しては無期或は七年以上、傷害は死刑、無期または十年以上、殺人は死刑となつた、また從來告訴によらざれば犯罪を構成しなかつたものに對しても警察職を發動せしめるため總罪の濫發、或は強盜竊盜、通謀なども一年以上十年以下の懲罰をうけ強、竊盜などいづれも三年以上、これに殺人傷害が加はれば十年以上、無期または死刑などの極刑を與へることになる

強い海軍さんに

老後の樂しみを獻金

いわが海軍に獻納致しますと申出た愛國婆さん―十四日午後二時半京城壽町明水台一六五雜貨商金山元淑さん（六八）は、同町總代木下榮氏に伴はれて本社を 訪問いまは 珍しい一圓銀貨や五十錢銀貨、一錢銅貨等を取りまぜて二百五十圓を海軍へ獻納して下さいと差出した、元淑さんの家は僅かな雜貨を商ふ家庭だが過去十六年間に亘つて銀貨銅貨を丹念に集めて貯金し老後の樂しみとしてゐたところ、大東亞戰の勃發と共に傳はる戰勝の快報に感激して獻金を決意したものである、【寫眞＝金山元淑さん】

十六年間蓄め込んだ大切な臍繰りをそのまゝそつくり強

なほ元淑さんの美しい行爲を聞いた同町第一區第二班長土肥健護氏はじめ時田春由、田瀨辰夫、笠井清、金津すゑ、林富雄、永田秀、同三郎、高橋正、江口はつ子、小林しげさん等は直ちに白圓を醵出して同日木下總代を通じて陸海軍へ各五十圓宛獻金した

海鷲に似た義士魂

在城の有志が義士會

二百四十年前の今夜雪の日に『義士の討入』はなされた、義士魂をつて白雪の陣志みごと大義を貫く"もののふ"の華やかな活躍はハワイ、マレー大空襲の皇軍海鷲の壯起にも似た大快擧は、十四日討入當夜を偲ぶ在城の有志者鈴川司政局長、松原朝鮮殖銀總裁、倉茂朝鮮軍報道部長、瀨戶京畿道警察部長、三澤少將を含む四十七名の『京城義士會』の面々は午後五時半かつきりに府內本町二丁目伊藤東作氏宅に馳せ參じ、時局を語りつゞけ時間を忘れていっぱいに"義士を偲ぶ會"を催した【寫眞＝朗讀する鈴川司政局長】

ラジオ 十五日（月）

朝 六・〇〇ニュース▲六・三〇アメリカの東亞侵略史（二）大川周明▲七・〇〇ニュース▲七・二〇『國民の誓』勝山愛一郎▲引續き『愛國詩』和田アナウンサー▲八・〇〇ニュース▲八・五〇（城）番組豫告▲九・〇〇『朝禮訓話』出水萬兵衞▲一〇・〇〇ニュース▲引續き、お話と音樂『兄さんのクンブク』佐藤綱子▲一〇・三〇『私達の決意』高良富子▲一一・〇〇お話と唱歌『ツヨイ日本ノヘイタイサン』▲一一・三〇經濟通信

晝 正午時報、ニュース（告）▲〇・三〇吹奏樂▲一・〇〇物語『歸還兵の覺悟』御橋公▲一・三〇『決戰生活訓』大政翼贊會發表▲二・〇〇朗讀『海の荒鷲』南部邦彦▲三・〇〇ニュース▲四・〇〇『戰時の國民教育』二荒芳德▲四・三〇經濟通信▲五・〇〇ニュース▲五・五〇（城）番組豫告

夜 六・〇〇少國民の時間▲引續き『少國民軍歌』▲六・三〇『海員の使命』友貞寬輔▲六・五五（城）公知事項▲七・〇〇ニュース他▲七・三〇國民に告ぐ『最後の勝利へ』宮本武之輔▲八・〇〇軍事發表▲引續き（城）戰時特輯『總立ちで敵國に當れ』鈴川壽男▲九・〇〇ニュース▲引續き管絃樂▲一〇・〇〇今日の戰況ニュース▲一一・〇〇ニュース

歌はぬ勝利 (89)

山中峯太郎【作】　高木清【畫】

富士を望む（一）

隆は井出上等兵の遺族を西大久保町の八百屋へ見まひに行き新齒の下駄を引ずつて、およそ八キロ餘りの路を、山梨の家へ歩きつゞけて來た。逗子の寺へ歸つて行く氣がせず、一月ぶりに山梨太郎と話してみたかつたからである。

山梨は汪精衛氏の傳記を出版社から依頼されて一氣に書きつゞけてゐた。夜九時ごろ不意に訪ねて來た佐々木隆を見ると、いつも鬱勃としてゐるのが、何か複雜な惱ましい表情をしてゐる。訝しな氣がして、

「どこへ行つて來たんだ。逗子からすぐ來たのか」

「いや……」

烈しく頭を振つた隆はハッとしながら、

「公子の家へ寄つて來たんです」

——公子、自刃した竹内氏の令孃だナ、その名前を思ひ出した山梨は、隆の何か怒つてゐる表情を眺めると、頷かずにゐられなかつた。

「そして何かあつたのか」

「何があるもんですか」

切つてすてるやうに云ひながら隆は、

「しかし」

と、顏をつよめると、

「逗子へ公子が、夕方にやつて來たんです。家に無斷で來なつたから呶鳴つて追ひ歸したが、その直後自分でも意外だつた。どうも……」

「何が意外だつたのか」

「寂寞としたのです。公子がゐなくなると、急に寂しくなつた。私が寂しいなんかいふと、笑はれるでせうが……」

「いや、笑ひはせんが、俺も意外だナ」

「さうでせう」

と、隆は、平然と、山梨の顏を見すゑて、

「しかし、公子に私が、いやしくも戀愛を感じてゐるとは、斷じて思はんですよ。しかし突然と來なつて突然と歸つて行きをつたあとは、われながら寂寞としてしまつた。かういふ感情は、何といふのですか」

「斷じて思はんといつても戀愛の一種だらうナ。そして公子の家へまた行つて會つたといふわけか」

「會つたですが、玄關だけで歸つて來たです」

「何にも云はずにか」

「さうです。顏を見ただけです」

「それで寂寞は治つたのか」

「今は、何ともないです。が、また猛烈に會ひたくなりさうです。こんなことは初めてだ」

「待てよ、今夜はこゝに泊るだらうナ」

「無論です」

「よし、明日、俺といつしよに行かう」

「どこへです」

「默つて附いて來い。今夜は早く寝ろ、俺は仕事だ」

肚の底から遠慮のない仲である。隆は憚かるところなく、座敷へ行くと、押入から自分で夜具を引出して、早速に寝てしまつた。

翌日、山梨は隆をつれて、本郷の帝大附屬病院に稻沼内科の醫局を訪ねて行つた。前から知つてゐる両井博士に隆の診察を願つた結果は、あらゆる方法による檢診の後、四日すぎて、その間、隆は山梨の家に泊つてゐたが、肺結核は明白に全治してゐる旨を電話で通知された。

「それ見ろ」

山梨は打開された氣がして隆に云つた。

「寺を出て來い。いよく公の働く時が來たんだ」

さすがに悦ばしい顏になつた隆は、口をモグくさせてゐたが、突如と云ひだした。

「南へ行きたいです。開拓すべき事業がうんとある筈だ」

「何を開拓するんだ」

「貿易を目的とする宣撫工作」

と、隆は逞しい目をかゞやかしたが、更に突如として云つた。

「公子を同行したいです。あれなら、きつとやるですからナ」

祝全州支局開設廿五周年

長水警察署 職員一同

任實郡廳 職員一同

全北道會議員 三宅勝秀

田代林二

四元美雄

全州府大和町 三南自動車商會 高瀨七藏

全北道會議員 柳東彦 長水郡長水邑内

鎭安郡廳 職員一同

長水郡廳 職員一同

完州郡糧穀配給組合 參禮事務所 東山事務所

完州郡廳 職員一同

全州七曜會

全羅北道 糧穀配給組合

金融組合聯合會 全北支部 道内各金融組合

全州地方專賣局

全州商工會議所
會頭 大木良作
副會頭 高木昌桓
同 川崎慶三郎
理事 明石翁助

全州府廳 職員一同

全州料理屋組合（不同順）
末廣 二葉 吉野屋 小富士 全州館 全一館 樂園 清豐館